

—ほうれんそう—

ほうれんそう

作型・病害虫名			月											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春	ま	き			● は種		■ 収穫							
秋	ま	き		■			●	■			● 雨よけ	■	●	
ベ	と	病												
立	枯	病												
萎	凋	病												
ア	ザ	ミ	ウ	マ	類									
ア	ブ	ラ	ム	シ	類									
ヨ	ト	ウ	ム	シ										
ハ	ス	モ	ン	ヨ	ト	ウ								
ハ	ダ	ニ	類											

べと病

留意事項

- 1 春・秋に天候不順な年に発生が多い。
- 2 QoI剤<11>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 抵抗性品種を利用する。
- 3 排水を良好にする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 は種前に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ユニフォーム粒剤](#) <4> <<11>> 【9kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ランマンフロアブル](#) <21> 【2000倍 3日/3回】
 - ・ [ピシロックフロアブル](#) <U17> 【1000倍 前日/2回】
- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [レーバスフロアブル](#) <40> 【2000倍 3日/2回】
 - ・ [アリエッティ水和剤](#) <P7> 【1500倍 前日/2回】

立枯病

留意事項

- 1 SDHI剤<7>は、薬剤耐性菌が出現しやすいので1作1回程度の使用に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 高温時は、寒冷しゃ等で遮光する。
- 3 雨よけ栽培を行う。
- 4 本ぽを土壌消毒する。
(ⅩⅢ土壌消毒 2土壌病害虫等を対象とした薬剤による土壌消毒(4) 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
【20～30kg／10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種10日前／1回】
- 5 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14>
【苗立枯病(リゾクトニア菌) 種子重量の0.5%粉衣 種子粉衣 は種時／1回】
または【苗立枯病(リゾクトニア菌) 500倍 3L／㎡ 土壌かん注 は種時／1回】
 - ・ [バシタック水和剤75](#) <<7>>
【苗立枯病(リゾクトニア菌) 種子重量の0.4% 種子粉衣 は種前／1回】または
【苗立枯病(リゾクトニア菌) 750～1500倍 3L／㎡ 土壌かん注
は種時～子葉展開時／1回】
 - ・ [タチガレン液剤](#) <32> 【500～1000倍 3L／㎡ 土壌かん注 は種時／1回】

萎凋病(いちょうびょう)

留意事項

- 1 地温15℃以上で発病する。

防除方法

- 1 発病地では数年間作付けを避ける。
- 2 窒素質肥料の過用を避ける。
- 3 発病ほ場の土を未発病ほ場に持込まない。
- 4 発病の恐れのあるほ場では土壌消毒を行う。
(ⅩⅢ土壌消毒 2土壌病害虫等を対象とした薬剤による土壌消毒 (4) 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <ー>
【20～30kg／10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種10日前／1回】
- 5 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【2000倍 3L／㎡ かん注 21日／2回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 施設開口部に防虫ネット（目合い0.8mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ファインセーブフロアブル](#) 劇 < 3 4 > 【2000倍 14日／2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 < 4 A > 【4000倍 前日／2回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) < 5 > 【5000倍 前日／2回】
 - ・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日／2回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 施設開口部に防虫ネット（目合い0.8mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A > 【3000倍 3日／2回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) < 4 A > 【4000倍 前日／3回】
 - ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【4000倍 前日／2回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【3000倍 14日／2回】
 - ・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日／2回】

シロオビノメイガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [カスケード乳剤](#) < 1 5 > 【4000倍 3日／3回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) < 5 > 【5000倍 前日／2回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [ベリマークSC](#) < 2 8 > 【4000倍 0.2L／㎡ かん注 7日／1回】

ヨトウムシ

防除方法

- 1 施設開口部に防虫ネット（目合い4mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アグロスリン乳剤](#) 劇 < 3 A > 【2000倍 7日／5回】
 - ・ [ノーモルト乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 7日／2回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > （Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

行う。

防除方法

- 1 施設開口部に防虫ネット（目合い4mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) <15> 【4000倍 3日／3回】
 - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 前日／2回】
 - ・ [ベリマークSC](#) <28> 【4000倍 0.2L／m² かん注 7日／1回】
 - ・ [BT剤](#) <11A> （IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) <21A> 【2000倍 21日／1回】

ホウレンソウケナガコナダニ

留意事項

- 1 コテツベイトを全面土壌散布する場合、利用は施設内に限る。

防除方法

- 1 使用する堆肥は、完熟のものを使用する。
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [フォース粒剤](#) 劇 <3A> 【9kg／10a 全面土壌混和 は種前／1回】
 - ・ [コテツベイト](#) <13> 【3～6kg／10a 全面土壌散布 は種時～2葉期（収穫14日前）／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) <6> 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [ネコナカットフロアブル](#) <10B> 【ケナガコナダニ類 1000倍 3日／2回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) <15> 【4000倍 3日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【4000～6000倍 2葉期まで（収穫14日前）／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。